

取扱説明書

DIGITAL DISPLAY YC-601

八重洲無線株式会社

目 次

定 格 ・ 付 属 品	2
パ ネ ル 面 ・ 背 面 の 説 明	3
使 用 方 法	4
回 路 動 作 の あ ら ま し	7
各 部 の 調 整	8
パ ー ツ ・ リ ス ト	10

このセットについて、または、ほかの当社製品についてのお問い合わせは、お近くのサービスステーション宛にお願い致します。又その節はかならずセットの番号（シャーシ背面にはってある名板および保証書に記入してあります）をあわせてお知らせください。また、お手紙をいただくときは、あなたのご住所、ご氏名は忘れずお書きください。

郵便番号 1143-□□

東京都大田区南馬込3丁目20番19号
八重洲無線株式会社
東京サービスステーション

電話番号 東京(03)776-7771-3(代表)

郵便番号 556-□□

大阪市浪速区下寺町3丁目4番6号 五十嵐ビル4F
八重洲無線株式会社
大阪サービスステーション

電話番号 大阪(06)643-5549

郵便番号 962-□□

福島県須賀川市森宿字ウツロ田43
八重洲無線株式会社
須賀川サービスステーション

電話番号 02487-6-1161

DIGITAL FREQUENCY READOUT FOR YAESU 101, 401 SERIES



●DIGITAL DISPLAY

DIGITAL DISPLAY YC-601はFT-101シリーズ (FT-101/S, FT-101B/BS, FT-101E/ES) およびFT-401シリーズ (FT-10X-401, FT-401 D/S) のデジタル リードアウト カウンターで、アナログダイヤル表示のトランシーバー (以後親機と称します) の VFO 端子と YC-601 (以後本機と称します) VFO 入力端子を付属のケーブルで接続、バンドスイッチを運用周波数帯に合わせることで送・受信周波数を 100Hz の桁までデジタル表示にて読みとることができ、より正確な周波数での送受信が可能となります。

表示方式には長時間の運用にも眼の疲れを感じ

させない緑色の蛍光表示管を採用しております。

また本機の大きな特色としては、各バンドの VFO 可変範囲 500kHz 幅を逸脱したときには、オフバンド警告回路が動作し、その時の周波数を表示しながら 6 桁の表示管全部が点滅しオフバンドしたことを知ることができます。

(MHz の桁の表示はそのまま縦上げなどはされません)

警告回路はアマチュアバンドの場合、必ずしも 500kHz 幅ではありませんので、各アマチュアバンドの下限では警告通り実際にオフバンドとなりますが上限周波数はまちまちで実際のオフバンドは警告されませんのでご注意ください。

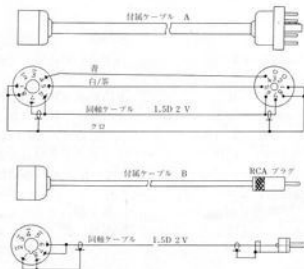
定 格

桁 数	6桁 (100Hz桁まで)	IC	C, MOS	MSM580	2個
基 準 発 振	1.31072MHz			MSM5502	1個
ゲート時間	0.1秒			MSM5564	1個
使用周囲温度	0℃~40℃		LINEAR	MC1496G	1個
電 源	交流100V 50/60Hz		REGULATOR	MC7805P	1個
消費電力	約10VA		トランジスタ	2SA564	5個
ケース寸法	(幅)220×(高)80×(奥行)235%			2SC372Y	1個
重 量	約2.5kg			2SC373	8個
使用電子管	蛍光数字表示管 LD-8062 6個 (8セグメント)		FET	2SK30AY	1個
使用半導体	IC TTL SN7400N 2個 SN7404N 1個 SN7475N 1個 SN7486N 1個 SN7490N 1個 μPB249D 3個		ダイオード	Ge 1N60AM	39個
				Si 1S1555	1個
				Si V06B	3個
				Zener RD6.2EB	1個

付 属 品

本機には下記の付属品がついております。

- (1) 接続ケーブルA 1本
(FT-101 シリーズ用)
- (2) 接続ケーブルB 1本
(FT-401 シリーズおよび FR-101/FL-101
または FR-101/FT-101の組合せ用)
- (3) ヒューズ 1A 1本



第1図 付属ケーブル接続図

パネル面の説明



① POWER

電源を ON-OFF するスイッチです。ON にすると電源が入って動作します。

② BAND

親機のパンドスイッチと同じバンドに合わせてください。パネルの印刷は親機と同様に波長表示になっています。

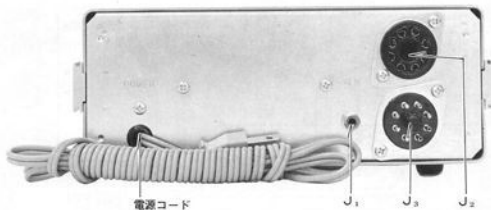
③ CALIB

表示周波数を校正するときのつまみです。時計方向にまわすと表示周波数は高くなり、反時計方向にまわすと表示周波数は低くなります。

④ 周波数表示部

数字表示管で周波数をデジタル表示で読みとります。表示は 6 桁で左 2 桁が MHz、次の 3 桁が kHz、6 桁目が 100Hz の桁を表示します。

背面の説明



●電源コード

交流 100 V のコンセントから電源をとります。
VFO (J₁~J₃)

付属ケーブルを用いて親機との接続に使用します。

親機と組み合わせについては 4 頁を参照してください。

使用方法

接続方法

YC-601を使用する場合、親機と外部VFOによって代表的な4種の使い方がありますので、お手元のセットに合わせてご使用ください。

(1) FT-101シリーズ単体のみとYC-601の接続 (第3図)

FT-101のEXT.VFO端子とYC-601のVFO入力端子(VFOジャックJ_a)を付属のケーブルAで接続します。

(2) FT-101シリーズと外部VFO、FV-101(B)と組み合わせるたすきがけ運用とYC-601の接続 (第4図)

FT-101とFV-101を接続しているケーブルをFT-101側ではずし、YC-601のVFOジャックJ_aに接続します。

さらにYC-601付属ケーブルAでFT-101のEXT.VFO端子とYC-601のVFOジャックJ_aに接続します。

(3) FT-401シリーズ単体のみとYC-601の接続 (第5図)

FT-401のVFO端子とYC-601のVFOジャックJ_aを付属のケーブルBで接続します。

(4) FT-401、FV-401とYC-601との接続 (第6図)

FT-401とFV-401のPOWER端子に接続されているケーブルはそのままし、VFO端子間のケーブルをFT-

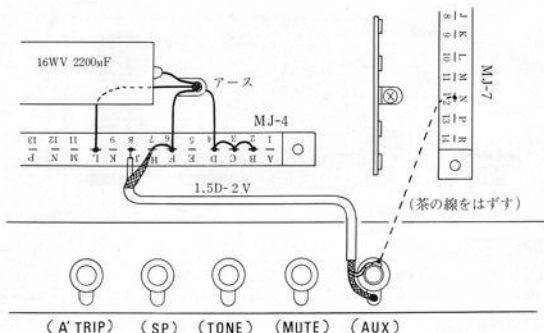
401のVFO端子側ではずし、YC-601のVFOジャックJ_aに移します。次にYC-601の付属ケーブルBでFT-401のVFO端子とYC-601のVFOジャックJ_aを接続します。

その他の接続方法

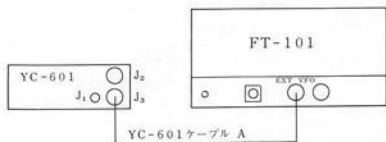
FT-101、FT-401との接続方法のほかにFR-101とFL-101及びFR-101とFT-101を組合わせた場合にも接続できます。この場合YC-601をFR-101とFL-101のVFO接続の中間に接続しますと受信感度等が低下することがありますので(VFO出力電圧のレベルを接続用同軸ケーブルの静電容量等で調整してあります)FR-101を若干改造していただきましてYC-601と接続します。

なお、FR-101受信機単体で受信のみを目的とする場合の接続、FR/FL-101ライン及びFR/FT-101ラインのトランシープ接続にYC-601を組合わせる場合には、(2)の方法で接続しますとFL-101のVFO使用時のみの動作となりますので第2図の方法でFR-101を改造することによって送受信の異なるたすきがけ運用など高度な操作にも動作しているVFOによるそれぞれの送受信周波数を表示させることができます。

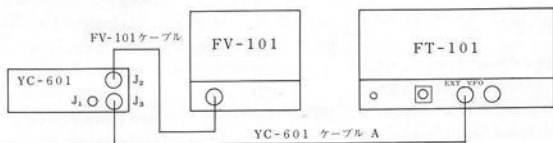
改造方法は第2図に、また接続方法は第7図を参照してください。



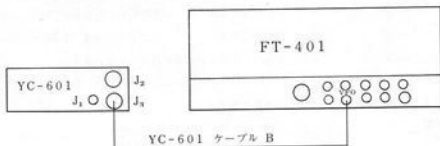
第2図 FR-101の改造



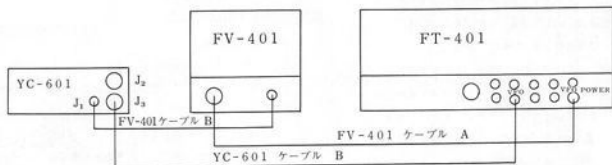
第3図



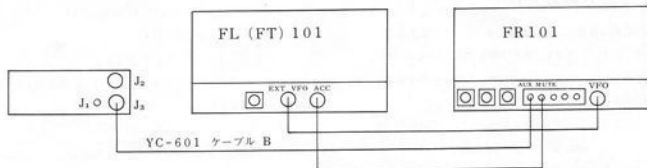
第4図



第5図



第6図



第7図

電源について

本機は商用電源（家庭用の電灯線）で使用するよう電源回路を内蔵しております。電源電圧は100V.50/60Hz用に設計されていますので電源電圧が90Vから110Vの間で使用してください。電源電圧が90V以下に低下しますと動作が不安定になることがあり、また電圧が高い場合にはセットの故障原因になりますのでご注意ください。

設置場所について

YC-601は周囲の温度が0℃～40℃までの間のごで使用してください。この範囲外の温度の場所でも動作はしますが表示周波数に誤差が生じてきます。周囲の温度が上記の温度範囲内であっても、直射日光の当たるような場所は避けてください。

また FT401 D/Sのように冷却ファンのないセットの上に本機を乗せて使用する場合、特にファイナル部分近くの上部は、かなり温度が上昇しますのでご注意ください。



ご使用になっているアンテナのVSWRが高い場合には高周波が本機にまわり込んでミスカウントをする原因となりますのでアンテナのマッチングには充分ご注意ください。

バンドスイッチの操作

YC-601のバンドスイッチは親機の使用周波数帯に合わせてください。バンドスイッチのパネル表示は親機と同じように波長表示となっていますので、たとえば7MHz帯でご利用のときは“40”の位置にセットします。また28.5MHz帯では“10B”の位置にセットします。使用周波数帯を変えるときには親機と合わせてください。親機とYC-601のバンドスイッチが異なっても動作には支障はありませんが、正確な周波数を表示しませんのでご注意ください。

周波数の読みとり方

周波数は表示部に表示された周波数をそのまま読みとってください。左から2桁がMHz、5桁目までがkHzでそれぞれ“.”が表示され100Hzの桁までの周波数を直読することができます。

たとえば  と表示すれば3.5718MHzとなります。また  は21.3950MHzとなります。

周波数の校正


kHz以下の周波数を正確に表示するためには、バンド毎に校正をする必要があります。

(1)まず使用する周波数帯にバンドスイッチを合わせます。この操作は周波数帯を変えるたびに合わせてください。

(2)SSBモードでの周波数校正

親機になるセットの受信周波数をマーカー（キャリブレーター）で校正します。セットの種類により25kHzか100kHz 間隔にゼロビートで表示されますから（詳しくは取扱説明書を参照のこと）任意の読みよい周波数に正確に同調します。

つぎにYC-601の表示周波数を親機のダイヤル校正点の周波数になるようにパネル面の“CALIB”フマミで合わせます。


たとえば親機のダイヤルを14.150MHzで校正したときにはYC-601の表示周波数も  になるように同調します。これでそのバンド内全域で0.1kHz以内の精度で正確な受信周波数が表示されます。

なおUSBとLSBでは親機の回路構成上3kHzのずれが生じますので、同一バンド内でもモード（ここではUSBとLSB）を変えた場合には再校正の必要があります。

(3)CWでの校正

周波数校正の手順はSSBと同じですが、CWの送信用キャリア発振周波数は3179.3kHzでSSB/USBのキャリア発振周波数3178.5kHzよりも800Hzだけ高くなっています。（FT-401はCW送信時に3178.5kHzを800Hzシフトして3179.3kHzとしています）

そこでCWモードでの校正にはゼロビート法による校正点よりも800Hzだけ高い周波数を表示する点にCALIB フマミで校正してください。

たとえば14.050.0MHzを校正点としてゼロビートをとった場合にはYC-601の表示は  になるように合わせます。

(4)AMでの校正（FT-401シリーズにはAMモードのないものもあります）

AMのときにはSSB/CWとは異なりマーカー信号とのビート音がとれませんので、ゼロビート法により親機のダイヤルを校正することはできません。

そこでマーカー信号の校正点でのSメーターの振れにより帯域幅の中心点に合わせます。

次にYC-601のCALIB フマミにて親機の周波数校正点の周波数に表示を合わせます。

回路動作のあらまし

デジタル表示回路の概要

デジタル表示回路には集積度の高い C、MOS、LSI をはじめ TTL、二重平衡型 IC などを有効に組合わせてコンパクトにまとめてあります。

表示方式には蛍光表示管による 6 桁表示で緑色の 8 セグメントによる“田”の字型の数字表示により受信周波数を 100Hz の桁までデジタル表示しています。実際にはその 1 つ下の桁つまり 10Hz の桁も計数しているため、デジタル表示個々の 1 カウント誤差によるチラツキを防止し 100Hz の桁までを安定に表示します。

100kHz 以下の 4 桁にはダイナミックドライブ方式を採用して部品の節約による消費電力と故障の低減をはかっています。

このカウンターは各周波数帯に応じて、MHz の桁を 160 メーターバンドの“1”から 10 メーター C、D の“29”

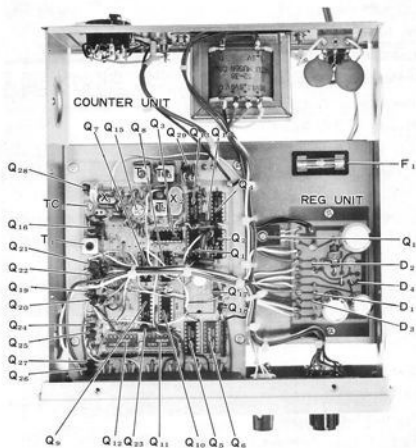
までを、D₁～D₃₃のダイオードマトリックスとバンドスイッチの操作により切換え表示します。

100kHz 以下の桁は VFO の発振周波数をすべてのバンドを 13.0MHz～13.5MHz に変換しこの周波数をカウンターで計数して 100kHz 以下の桁を表示させています。

500kHz より始まるバンド (80 メーターバンドの 3.5MHz～4.0MHz など) でも 13.0MHz～13.5MHz に変換されるため、このままでは 3.5MHz は 3.0MHz と表示されますので、500kHz から始まるバンドにセットされたときには 100kHz の桁はカウント数に“5”加算する回路が組込まれており、正規の受信周波数を表示するようになっております。

カウンター回路の動作

観機の VFO の発振周波数 9.2MHz～8.7MHz をカウンターにて計数します。たとえば 3.5MHz を受信する場合の VFO の発振周波数は 9.2MHz、4.0MHz では 8.7MHz を発振することになり受信周波数が高くなるにたがって VFO の発振周波数は低くなる方向に変化しますので VFO の発振周波数を直接カウントできません。そこで妨害の少ない周波数にカウンター入力周波数と周



波数変化の方向を交換したのちカウントしています。本機では交換後の周波数を13.0000MHz~13.5000MHzにとり100kHz桁以下の0~500kHzをカウントして送受信周波数を表示します。

VFO よりの入力(9.2~8.7MHz)はJ₁、J₂、J₃ いずれかによりカウンターユニットのQ₂₀ 2SC372Yに加えられる増幅されバンドパスコイルT₃、T₄を経てミクサー用IC Q₁₅ MC-1496Gに加えます。ローカル発振はQ₁₆ 2SC373により11.1MHzの水晶を発振させ、出力トランスT₁にて2倍の22.2MHzを取り出しQ₁₅に加えます。出力トランスT₂には差のヘテロダイン(22.2-9.2=13.0/22.2-8.7=13.5)によりミクサー出力を取り出します。

ローカル発振周波数は、親機のローカル発振周波数のわずかな偏差などを補正するために、水晶発振子とアース間にQ₂₈ 2SK30AYのドレイン・ゲート間を接続しドレインに加える直流電圧の変化によるドレイン・ゲート間の容量が変化するのを利用してパネル面のCALIBつまみにて約4kHz上下に調整することができます。

T₂の出力13.0~13.5MHzの信号はQ₁₋₁で波形整形されQ₂₋₁(Time Gate) Q₂₋₂(Inverter) Q₄(10Hz Counter)を通してダイナミックドライブ用10進カウンター4組、ラッチ回路を含む集積度の高いQ₈ MSM 5002に加えられる100Hz、1kHz、10kHz、100kHzの各桁をカウントしBCD出力でとり出します。

タイムベース発振は発振、Binary Counter 18段を1パッケージにしたQ₁₃ MSM-5564により1.31072MHzの水晶を発振2の18乗分の1にして5Hz(T=0.2sec)の矩形波を作り(Gate Time 0.1Sec)、パッパフアーQ₁₄ 2SC373を通して、Q₃₋₁のゲート信号、Q₈₋₂のブランキング信号に使用し、Q₁₋₂、Q₁₋₃、Q₂₋₃、Q₁₋₄、Q₁₋₅、Q₁₋₆によりリセット用信号、ラッチ用メモリー信号などを発生します。

MSM502のBCD出力は蛍光表示管ドライバーQ₆、#PB-249Dにより表示管V₁、V₂、V₃、(100Hz、1kHz、10kHzの桁)に8セグメントの出力を供給します。また1~3digitの出力は各々Q₁₇~Q₂₂(2SC373, 2SA564)によりV₁、V₂、V₃をダイナミックドライブし下3桁を表示します。

100kHzの桁は1.5MHz~2.0MHz、3.5MHz~4.0MHzなどのバンドで+5の加算をデジタル的に行なうためBCD出力を加算用IC Q₇、Q₈ MSM-580、Q₉ SN7475、Q₁₀ SN7486を通して表示管ドライバー Q₁₁、#PB249D

によりV₄(100kHzの桁)を駆動します。

Q₁₄からのタイムパルスとQ₁₀、D₃₀、D₃₇、Q₃₋₂によりオフバンドを判定しオフバンド時にブランキング信号を発生V₁~V₆の全蛍光表示管を点滅させます。

各バンド表示は左の2桁(MHz表示V₅、V₆)はカウンターに関係なくD₁~D₂₀のダイオードマトリックスのコードをバンドスイッチの切換えによりQ₁₂ #PB249 D、Q₂₄~Q₂₇(2SC373, 2SA564)をコントロールしV₅(1MHzの桁)V₆(10MHzの桁)を駆動します。

電 源 部

電源トランスの二次側9V、13.5V、18Vの端子からそれぞれD₁、D₂、D₃で半波整流し+9V、+13.5V、-18Vの直流電圧を得ています。+9VはQ₁、三端子型レギュレーターMC-7805で+5Vに安定化されカウンタ部のQ₁₅、Q₂₀を除く各半導体の電源として供給します。+13.5VはQ₁₅二重平衡型IC MC-1496GとQ₂₈ 2SC372Yの電源として、また一部をD₄安定電圧ダイオードRD6.2EBで+6VのCALIB用電圧を作りローカル発振周波数をコントロールします。

蛍光表示管V₁~V₆のフィラメント用には電源トランスの1.5V巻線より抵抗2.2Ωを通して供給するとともに-18Vの電圧をかけフィラメントの電位をマイナス側にシフトし表示管を発光させています。

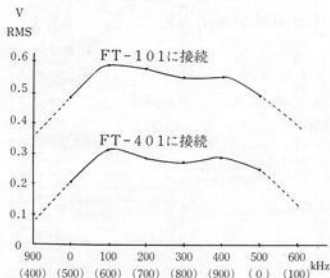
各部の調整

お手許のセットは出荷する前に完全に調整し、厳重な検査をしておりますのでそのまま完全に動作いたします。回路構成の大半は各種ICをはじめ半導体素子になっており、それにより回路動作が不安定になることはほとんどありませんがコイルの同調点等が長い間ご使用いただいている間には調整した状態が変わることがあります。長期間の使用に対しても同調に大きなズレを生じることはありませんので調整時においてはコアを1回転以上まわす必要はありませんので再調整には十分注意してください。

(1)VFOバンドパスコイル T_3 , T_4 の調整

VFOの発振周波数は9.2MHz~8.7MHzで、この範囲で均一な出力が得られるように T_3 , T_4 によるバンドパス同調回路があります。

VTVMのRFプローブをテストポイント端子 TP_1 とアース間に接続します。表示周波数の100kHz以下の桁が000.0~500.0 (3.5MHz帯等は500.0~000.0)まで視機の間調ダイヤルをまわし、そのときの電圧変化が第8図のようになっていれば正常ですがバンドパス特性が崩れているときには T_3 , T_4 のコアを調整してください。また視機によっても出力電圧に差がありますのでFT-101に接続したときで0.5~0.6V (RMS) FT-401で0.2~0.3V (RMS)ぐらいが標準ですがいずれの場合にもバンドパス特性に注意してください。



第8図

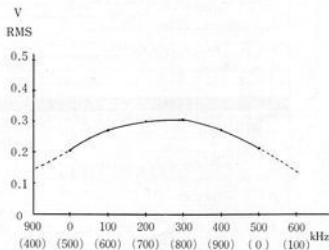
(2)水晶発振同調コイル T_1 の調整

VTVMのRFプローブをテストポイント端子 TP_2 とアース間に接続します。VTVMのレンジは0.3Vとします。

T_2 のコアを時計方向にまわしてコイルに入れていきますと発振の最大点があります (このときの電圧は160mV位となります) この最大点では発振が不安定ですから、この最大点より10mV~15mV電圧が下がるようコアを抜き発振の安定点に固定します。

(3)ミクサー出力コイル T_2 の調整

VTVMのRFプローブをテストポイント端子 TP_3 とアース間に接続します。VTVM 0.3V レンジとします。VFO入力を加えて表示周波数を下4桁 250.0kHz (又は750.0kHz)とし、 T_2 のコアをまわして出力電圧が最大になるようにします。このときの電圧は0.32V位になります。また調整後のミクサー出力の特性は第9図のようになります。(VTVMの誤差およびセットのVFOレベルによっては、上記電圧の±20%位の差が生じることもあります)



第9図

保守について

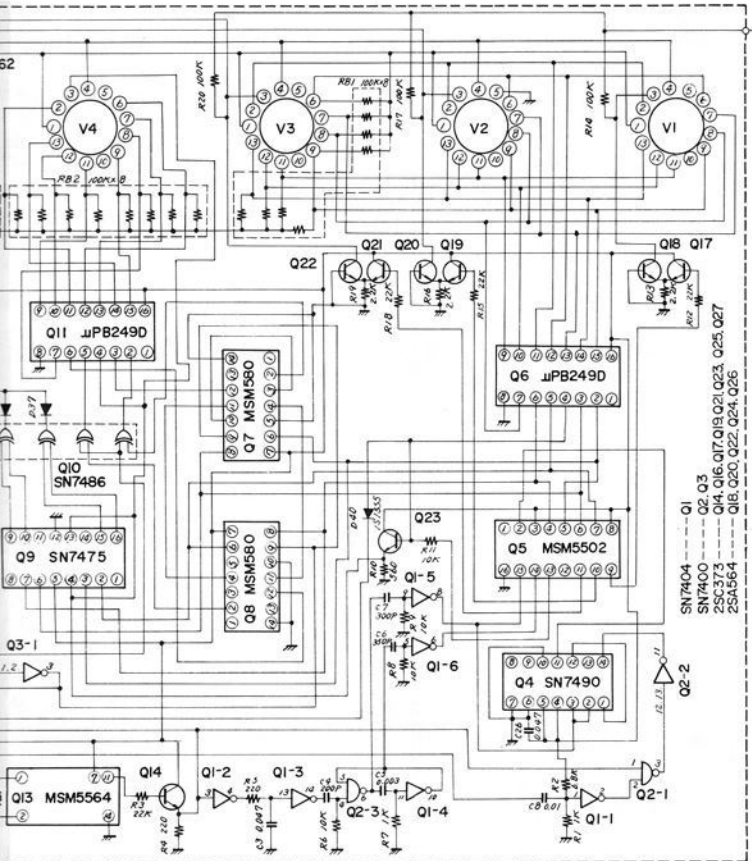
長期間にわたってご使用いただいている間には蛍光数字表示管、半導体素子などが不良になることがあります。

セットが正常に動作しない場合、故障と判断するまえにもう一度電源電圧が正常かどうかなど使用条件に不具合な点がないかどうかお調べください。

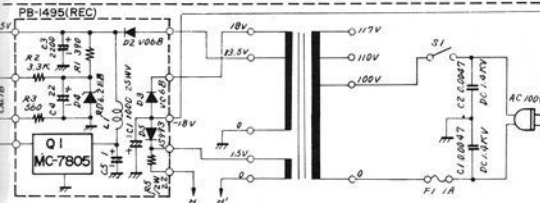
故障と思われる場合には、お求めになった販売店または当社営業部サービス課にご相談ください。特に回路の構成が特殊な部品でまとめており、テスター等で回路をチェックすると正常な部品も不良になることがありますので故障の場合は内部をいじらないでサービス課までお送りください。

YC-601 PARTS LIST

MAIN CHASSIS				5	C, MOS	MSM5502
VR	POTENTIOMETER		13	C, MOS	MSM5564	
1	16 ϕ	5K Ω B	15	LINEAR	MC1496G	
C	CAPACITOR		28	FET	2SK30AY	
1,2	1.4W	0.0047 μ F	18,20,22,24,26	TR	2SA564	
			29	TR	2SC372Y	
			14,16,17,19	TR	2SC373	
T	TRANSFORMER		21,23,25,27			
1	POWER	52-46				
				D	DIODE	
S	SWITCH		1-39	Ge	1N60AM	
1	POWER	MSH-203N	40	Si	1S1555	
2	BAND	1-1-12				
				X	CRYSTAL	
J	JACK		1	HC-18/U	11.1MHz	
1	VFO JACK A	CN-7017	2	HC-6/W	1.31072MHz	
	VFO JACK B	SI-0507				
	VFO JACK C	SI-0611				
				R	RESISTOR	
				CARBON FILM		
F	FUSE		42	$\frac{1}{4}$ W	56 Ω	
1		1A	29,40,41	$\frac{1}{4}$ W	100 Ω	
			27	$\frac{1}{4}$ W	180 Ω	
FS	FUSE HOLDER		4,5	$\frac{1}{4}$ W	220 Ω	
1		F-3294	39,45	$\frac{1}{4}$ W	470 Ω	
			10	$\frac{1}{4}$ W	560 Ω	
			33	$\frac{1}{4}$ W	820 Ω	
			1,7,34,36,37	$\frac{1}{4}$ W	1K Ω	
			31	$\frac{1}{4}$ W	1.2K Ω	
PB	PRINTED CIRCUIT BOARD		13,16,19,22,24,30,32	$\frac{1}{4}$ W	2.2K Ω	
1495(A-Z)	REG. CIRCUIT		44	$\frac{1}{4}$ W	3.3K Ω	
			2	$\frac{1}{4}$ W	6.8K Ω	
Q	IC		6,8,9,11,21,23	$\frac{1}{4}$ W	10K Ω	
1	REGULATOR	MC-7805P	3,12,15,18,43	$\frac{1}{4}$ W	22K Ω	
			35,38	$\frac{1}{4}$ W	33K Ω	
D	DIODE		14,17,20,25,26,28	$\frac{1}{4}$ W	100K Ω	
2,3	Si	V06B				
4	Zener	RD6.2EB				
5	*	1S993				
R	RESISTOR		1,2,3	RB	BLOCK RESISTOR	
	CARBON FILM			CENTER COMMON		8 \times 100K Ω
1	$\frac{1}{4}$ W	390 Ω		C	CAPACITOR	
3	$\frac{1}{4}$ W	560 Ω		DIPPED MICA		
2	$\frac{1}{4}$ W	3.3K Ω	31	50VW	15PF	
	CARBON COMPOSITION		1,2,14,28	50VW	50PF	
5	$\frac{1}{2}$ W	2.2 Ω	11	50VW	60PF	
			9	50VW	100PF	
C	CAPACITOR		10	50VW	150PF	
5	16VW	1 μ F	4	50VW	200PF	
4	16VW	22 μ F	30,32	50VW	250PF	
3	16VW	2200 μ F	7	50VW	300PF	
1	25VW	1000 μ F	6	50VW	350PF	
				CERAMIC DISC		
L	INDUCTOR		8,13,15-17	50VW	0.01	
1	CHOKE	35 μ H/10K Ω 1W	19-22,27			
			3,12,18,24-26	50VW	0.047 μ F	
			29,33			
COUNTER UNIT						
PB	PRINTED CIRCUIT BOARD		5	MYLAR		
1508(A-Z)	COUNTER CIRCUIT			50VW	0.0033 μ F	
V	DISPLAY TUBE		23	ELECTROLYTIC		
1-6	DIGITRON	LD-8062		16VW	100 μ F	
Q	IC FET TRANSISTOR		TC	TRIMMER CAPACITOR		
2,3	TTL	SN7400N	1	ECV-1ZW	20P50	
1	TTL	SN7404N	L	INDUCTOR		
9	TTL	SN7475N	1	TV-245	250 μ H	
10	TTL	SN7486N	2	MICRO INDUCTOR		
4	TTL	SN7490N	3,4	MICRO INDUCTOR		
6,11,12	TTL	μ PB249D	T	TRANSFORMER		
7,8	C, MOS	MSM580	1	OSC	1004	
			2	MIX	1005	
			3,4	BAND PASS	1035	



- SN7404 --- Q1
- SN7400 --- Q2, Q3
- 2SC373 --- Q4, Q16, Q17, Q19, Q21, Q23, Q25, Q27
- 2SA564 --- Q18, Q20, Q22, Q24, Q26



NOTES.

- ALL RESISTORS IN OHM 1/4W 1.0% UNLESS OTHERWISE NOTED.
- ALL CAPACITORS IN μF UNLESS OTHERWISE NOTED.

+ - 16VW

YC-601

CIRCUIT DIAGRAM

